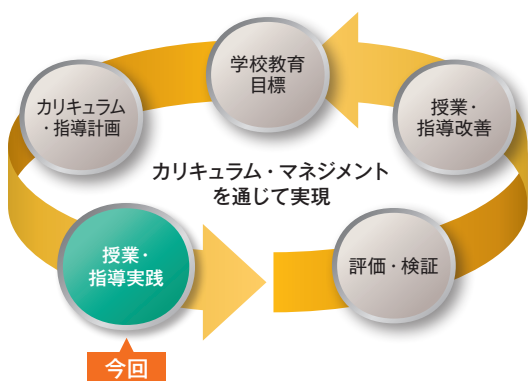


改 革 事 例

生徒の状況を見ながら築く探究学習で 「17の力」の育成を目指す

東京都・私立山崎学園富士見中学高校



◎建学の精神は、「純真・勤勉・着実」。2010年度に高校からの入学者の募集を停止し、完全中高一貫校へと移行した。教育目標として「社会に貢献できる自立した女性の育成」を掲げ、探究学習や多文化交流などの充実に力を入れている。

◎設立 1940(昭和15)年学校法人山崎学園設立

◎形態 全日制/普通科/女子校

◎生徒数 1学年約240人

◎2019年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、筑波大、千葉大、東京医科歯科大、東京外国語大、一橋大、九州大、首都大学東京などに27人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ770人が合格。

◎URL <https://www.fujimi.ac.jp>



探究学習のカリキュラム構築に向け、専門の委員会を発足

中高一貫教育を行う女子校の私立山崎学園富士見中学高校は、「探究委員会」(現・教育研究部)での検討を経て、2017年度、中高6年間で生徒に身につけさせたい資質・能力「17の力」を設定し、その育成を実現する探究学習のカリキュラム構築に力を注いでいる。佐藤真樹校長は、「育成を目指す生徒像の設定や探究学習の充実には、以前からその必要性を感じ、取り組んできました」と、検討の過程を振り返る。

まず、12年度、学校経営について検討する「校務運営委員会」が、生徒に身につけてほしい資質・能力についてのアンケートを、各学年や分掌に実施。その回答を基に、生徒に育成を目指す資質・能力として、「自分と向き合う力」「人と向き合う力」「課題と向き合う力」の3つを設定した。

そして、15年度、これからの社会に求められる資質・能力を育成する教育活動は、探究学習が柱になるという考えの下、既存の特別活動を、探究学習により結びつく内容へと改

善する方針を打ち出した。

「その際にまず必要としたのは、探究学習で育成すべき資質・能力を定めて評価項目とし、それらの評価基準を設定して、教師間で生徒を評価する際の目線合わせをし、生徒に目標を明示することでした。それにはルーブリックが有効であり、専任で検討する分掌が必要だと判断して、17年度、『探究委員会』を発足させました」(佐藤校長)

全教師参加のワークショップで育成を目指す生徒像を共有

探究委員会は、国語、社会、数学、理科、英語から、担当学年が重ならない5人の教師と、司書教諭を加えた計6人で構成した。

「学校図書館は、生徒が探究学習を行う上で不可欠な場です。また、司書教諭は、学年を超えて生徒の様子に目を配ることができると、委員に加えました」(佐藤校長)

司書教諭の宗愛子先生は、自身の役割を次のように語る。

「私は前任校で、探究学習の指導経験がありました。そこで、探究委員会では、探究学習のねらいや指導

*「学校教育デザイン」とは、本誌が2017年度6～12月号の特集で提唱した、「学校教育目標からカリキュラム・指導計画の策定、授業・指導実践、その評価・検証、授業・指導改善までの一連のサイクルが、カリキュラム・マネジメントを通じて実現される学校改革の営み」のこと。

のポイント、図書館の役割を話し、先生方が探究学習に関する理解を深められるように努めました」

探究委員会はまず、全教師参加のワークショップを実施。これからの社会について書かれた資料を読んだ上で、「本校の生徒が既に身につけている資質・能力と、まだ身につけられていない資質・能力」をテーマとして、数人ずつのグループで話し合った。同委員会主任（現・教育研究部主任）の三浦佳奈先生は、ワークショップの意義を次のように語る。



校長 佐藤真樹
 教職歴38年。同校に赴任して38年目。
 教育研究部主任 三浦佳奈
 みうら・かな
 教職歴13年。同校に赴任して13年目。社会科。
 教育研究部 田邊雅義
 たなべ・まさよし
 教職歴19年。同校に赴任して19年目。数学科。
 教育研究部 宗愛子
 そう・あいこ
 教職歴15年。同校に赴任して4年目。図書部。司書教諭。

「教師一人ひとりが自校や生徒への思いを語り、周りの考えにも耳を傾け、その中から育成を目指す生徒像が浮かび上がるような対話の場を目指しました。すると、実施後、『このような対話の機会をもっと設けてほしい』といった声が聞かれました。日頃から職員室などで、教師間で話をしていきますが、教育観や指導観について話す機会がさらに必要なのだと感じました」

そして、ワークショップで出された意見を基に、中高6年間で育成を目指す資質・能力を「17の力」として設定し、12年度に設定した3つの力を細分化する形で整理（図1）。同時に、それぞれの資質・能力の到達度を6段階で示したルーブリックも作成した（P.24図2）。

中学校は既存の活動を見直し、探究学習に組み込む

次に着手したのは、生徒に「17の力」を育むための探究学習のカリキュラムの構築だ。

まずは、17年度に中学校3年間のカリキュラムを作成した。その際に留意したのは、既存の教育活動を

図1 富士見中学高校が育成を目指す資質・能力

学校教育目標 社会に貢献できる自立した女性の育成

- ⑫課題を発見する力
- ⑬情報を活用する力
- ⑭多角的に考える力
- ⑮論理的に考える力
- ⑯創造する力
- ⑰社会に貢献しようとする力



- ⑥聴く力
- ⑦人を巻き込む力
- ⑧人とつながる力
- ⑨話し合う力
- ⑩発表する力
- ⑪記述する力

- ①自分の意見を形成する力
- ②チャレンジする力
- ③計画を立てる力
- ④やり遂げる力
- ⑤自らを振り返る力

*学校資料を基に編集部で作成。

生かすことだ。初めて探究学習の指導を経験する教師もいたため、新たな教育活動を導入すると戸惑いや負担が生じると考えて、既存の行事の内容を見直し、探究学習に組み込むことにした。例えば、中学1年生7月に行う林間学校は、「自然をじっくり観察し、そこから疑問を持つこと」を目的とし、より探究的な活動をする教育活動であることを明確化した。

また、生徒も教師も探究学習のプロセスを順に積み重ねられるよう、

中学1年生は「問う」（課題の設定）、中学2年生は「調べる」（情報の収集）、中学3年生は「伝える」（整理・分析とまとめ・表現）ことを、それぞれ活動の中心に据えた。

そして、中学校での探究学習の集大成として位置づけたのが、中学3年生で取り組む卒業研究だ。それも、既存の卒業研究の内容を見直したものであり、1学期に生徒が教師と面談して課題を設定し、調べた内容を冊子にまとめ、9月の文化祭で中間発表、3学期のポスター発表会

に向けてさらに発表力を磨くという流れとした。教育研究部の田邊雅義先生は、新たな卒業研究としたことよって、生徒の成長の手応えを次のように語る。

「以前の卒業研究では、調べ学習にとどまっていたましたが、現在の進め方にしてからは、課題設定の段階から図書館を利用し、さらに生徒が各自でフィールドワークを行い、最後には自分の考えを深めていけるようになりました。ポスター発表では、自分の言葉で自信を持って発言する姿が見られています」

高校はSDGsに関連つけた内容とし、探究力を磨く

高校での探究学習は、社会的に関心が高まっているSDGs（*1）を軸にしている。

「高校での探究学習は、生徒にどのようにすれば社会へ貢献できるのかといった意識を育み、視野を広げられるSDGsをテーマにすることにしました」（田邊先生）

19年度の活動内容は次の通りだ。高校1年生は、SDGsの目的や17の目標について学んだ上で、関心を

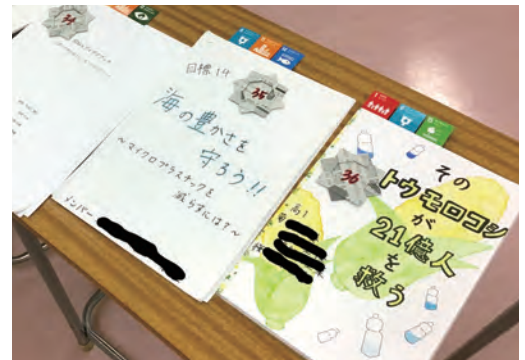


写真 文化祭では、各グループがアクションプランを冊子にまとめて展示。来場者に意見をもらった。

持った目標ごとにグループとなり、それぞれの目標の達成に向けて自分たちに何ができるのかを考え、アクションプランを立案。その内容を冊子にまとめ、文化祭で展示した（写真）。そして、来場者に書いてもらった意見を参考にしながら、アクションプランをさらに練り上げ、最終的に全校発表会でプレゼンテーションをする予定だ。

「17の目標は社会とのつながりが分かりやすく、生徒も考えやすいように、一生涯命取り組んでいきます」（田邊先生）

5月に沖縄体験学習に取り組み高校2年生は、それまでに学び、考えてきたSDGsをベースに、個人で

図2 「17の力」のルーブリック（抜粋）

評価項目	定義	E	D	C	B	A	S
① ① ① ① ① 自分の意見を形成する力	様々な情報を基に自分の意見を形成する力	自分の意見を持っていない。	意見はあるが、明確な理由がない。	少ない情報を基に、意見を形成している。	様々な情報を基に、自分の意見を形成している。	様々な情報を批判的に捉え、それを根拠にし、自分の意見を形成している。	どのような状況においても、様々な情報を批判的に捉え、それを根拠にし、自分の意見を形成している。
② ② ② ② ② チャレンジする力	自らを高めるための目標を設定し、達成しようとする力	これまでに自分が達成したことしがない。	未達成のことに取り組んでいる。	自分から未達成のことに取り組んでいる。	困難な課題に対して失敗を恐れず、自分から未達成のことに取り組んでいる。	困難な課題に対して失敗を恐れず、自分から未達成のことに取り組んでいる。また、失敗や経験を次に生かそうとしている。	どのような状況においても、困難な課題に対して失敗を恐れず、自分から未達成のことに取り組んでいる。また、失敗や経験を次に生かしている。
③ ③ ③ ③ ③ 計画を立てる力	課題解決のために計画を立てる力	指示を受けても計画を立てない。	指示された通りに計画を立てている。	指示された通りに、実現可能な計画を立てている。	自分で見通しを立て、実現可能な計画を立てている。	自分で見通しを立て、実現可能な計画を立てている。また、柔軟に修正できる。	想定外の事態が起こっても、実現可能な計画を立てている。また、柔軟に修正できる。
④ ④ ④ ④ ④ やり遂げる力	課題を最後まで諦めず取り組み、やり遂げる力	課題をやり遂げる前にやめてしまう。	課題をやり遂げているが不備がある。	課題を不備なく最後までやり遂げている。	様々な工夫をしながら、課題を最後までやり遂げている。	様々な工夫をしながら、課題を最後までやり遂げている。その工夫が成果物に反映されている。	どのような状況においても、様々な工夫をしながら、課題を最後までやり遂げている。その工夫が成果物に反映されている。
⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ 自らを振り返る力	自分の考えや行動を振り返り、次の考えや行動につなげる力	機会を与えられても、振り返らない。	機会を与えられれば、振り返ろうとするが、自分の考えや行動の振り返りにはなっていない。	機会を与えられれば、次につながるように自分の考えや行動を振り返ることができる。	自ら機会を見つけて、自分の考えや行動を振り返ることができる。	自ら機会を見つけて、振り返ったことを次の考えや行動につなげ、改善しようとしている。	どのような状況においても、振り返ったことを次の考えや行動につなげ、改善しようとしている。

* 学校資料を基に編集部で作成。ルーブリックの全体は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp/>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け」をご覧ください。

* 1 Sustainable Development Goals の略。2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。



司書教諭として、
探究学習の充実に
貢献したい

宗 愛子先生

探究学習では、課題の設定や資料の収集、調べた結果を基に深める考察など、あらゆる場面で学校図書館が重要な役割を担うこととなります。司書教諭に求められるのは、学習に必要な書籍や資料をそろえるだけではありません。探究学習を始めてから、図書館に来る生徒は、目に見えて多くなりました。生徒と資料と一緒に探しながら、彼女たちが学びの質を高められるような気づきになる言葉がけを心がけています。

司書教諭は、情報収集や情報活用のプロでもあります。先生方から、「生徒にこういったことを考えさせたいけれども、何かよい資料はないか」と相談された際に、学習内容や到達目標を把握した上で、適切なアドバイスをすることも求められます。生徒や先生から信頼され、気軽に相談してもらえ、司書教諭でありたいと思います。

テーマを設定。沖縄体験学習での調査や文献調査を重ねて、夏季休業中にレポートを作成した。

「提出されたレポートを読むと、多くの課題を感じました。問いが絞り切れていなかったり、情報収集をしているものの、整理・分析をしていなかったりといったことです。そうした生徒たちの現状を受けて、2学期には、図書館と連携して『探究型読書』を行うことにしました」（三浦先生）

探究型読書では、「科学道100冊」（*2）の中から生徒が自分で書籍を選び、その表紙と目次から内容を考えさせたり、目次からキーワードを抜き出して書籍の帯を作成

生徒の状況に合わせて、
実践しながら活動を構築

したりする活動を行っている。生徒がどのような課題意識を持ち、何に興味・関心があるかによって、同じ書籍でも抜き出されるキーワードや内容の類推は異なる。そこで、活動を通じて、生徒に自分の興味・関心やものの見方・考え方を自覚させることもねらいとした。

同校では、探究学習を本格的に始めたばかりであり、計画を変更して探究型読書を導入したように、今後も生徒の状況を見ながら活動内容を決めていく考えだ。

その際に、教育活動の指針となり、教師間の意識統一の基となるのが、「17の力」のルーブリックだ。そして、探究学習における活動が、どの力をどこまで育成することを目指すものなのかを整理した「探究プログラムで目標とするルーブリック項目案」を、教育部では作成し、運用中だ（図3）。その評価規準も、生徒の状況を見ながら随時見直していく考えだ。

三浦先生は、今後の展望を次のように語る。

「『17の力』は、すべての教育活動において育成することが可能であ

図3 「探究プログラムで目標とするルーブリック項目案」

学年	学習活動	ルーブリック項目																
		① 自分の意見を形成する力	② チャレンジする力	③ 計画を立てる力	④ やり遂げる力	⑤ 自らを振り返る力	⑥ 聴く力	⑦ 人を巻き込む力	⑧ 人とつながる力	⑨ 話し合う力	⑩ 発表する力	⑪ 記述する力	⑫ 課題を発見する力	⑬ 情報を活用する力	⑭ 多角的に考える力	⑮ 論理的に考える力	⑯ 創造する力	⑰ 社会に貢献しようとする力
中1	探究学習プレ						C	C		C	D		D	D				
	生き物探究教室				C	C	C	C	C		C	D	D	D	D	C	D	
	上野動物園FW				C	C				C		B		D	C	C		C
中2	個人探究	C	C	C	C	C							C	C	C	D		D
	上野浅草FW①			C	C	C	C	B		B	D	C	C	C	C	C	D	
	上野浅草FW②		C	C	C	C	B	B	C	B	C		C	C	C	C	C	C
中3	卒業研究			C		C	B						C	C				C
	卒業研究	B	C	B	B	B	B		C		B	B	B	B	B	B		C
高1	SDGs	A	B	A	B	B	A		B	B		B	B	A	A	B		B
	沖縄体験学習	A	A	A	B	A	A		B	B		A	B	A	A	A		B
高2	探究型読書	A	A		A	A	A				B		A	A	A	A	A	A

表中のA～Dは、ルーブリック（図2）で示した評価規準。*学校資料を基に編集部で作成。

導かれた道標

教育活動の新設や変更の決定は、目標とする資質・能力が育成できるか、できているかで判断する。

り、授業でもそれらの育成を意識した発問や活動をする教師が増えていきます。探究学習以外の教育活動でも『17の力』を育成していけるよう、教師間で対話を重ねながら取り組みを築いていきたいと思えます」

*2 国立研究開発法人理化学研究所と株式会社編集工学研究所の共同プロジェクトで、書籍を通じて科学者の生き方や考え、科学の面白さや素晴らしさを届ける事業。「元素ハンター」「美しき数学」「科学する女性」「科学道クラシック」の4ジャンルで100冊を推薦。